

## 三菱重工を分析する ⑩

# アルストム争奪戦にかけた 三菱重工の狙い

### 目 次

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| 1 アルストム争奪戦はどのように繰り広げられたか | 1 |
| 2 三菱重工の狙い                | 4 |

2014年7月

この冊子は、「三菱重工を分析する」のブログから関係する部分を取り出し、再編集して作成しました。日本共産党三菱重工広製支部のホームページからダウンロードできますので、ご自由にプリントしてご利用ください。

皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしています。

広島市中区八丁堀 8-11 日本共産党広島県委員会気付け  
日本共産党三菱重工広製支部  
Eメール zan67316@nifty.com

## アルストム争奪戦にかけた三菱重工の狙い

アメリカの巨人GE対ドイツのシーメンスと日本の三菱重工の共同戦線がフランスのアルストムをめぐる争奪戦を繰り広げた。

シーメンス・三菱重工の共同戦線は敗退したが、三菱重工が 5400 億円を超える資金を投入しても欲しかったものは何か？ 宮永社長は「欧州、アフリカでのネットワークや原子力事業を強化するのが狙いだった」と説明。

今なお原発に固執して事業拡大とは！！ シーメンスは日本の原発事故後に原発建設から撤退しているのに。

## 1 アルストム争奪戦はどのように繰り広げられたか

M&A(合併と買収)の多くは水面下で交渉が進んで結果だけが発表されるが、今回はフランス政府も関係する国際的な争奪戦となって途中経過が節々で公表された。ここではその経過を振り返り、三菱重工がどのような提案をし、何を狙っていたのか確認しておこう。

### アルストム争奪戦の経過

経過を簡単に振り返ると次のとおりである。

#### アルストム争奪戦の経過

- |          |  |
|----------|--|
| 4 月下旬    | <ul style="list-style-type: none"><li>・経営困難におちいっているフランスのアルストムに、アメリカの GE がエネルギー部門の買収交渉をしていることが明るみに出た。</li><li>・フランス政府は国益上の観点から法的権限を持って介入を開始。</li><li>・ドイツのシーメンスが割ってはいれる形で GE に対抗する提案の検討を開始。</li><li>・シーメンスと三菱重工が共同で提案することを協議。</li></ul> |
| 6 月 11 日 | ・三菱重工とシーメンスは、アルストムへの提案を共同で検討していると正式に発表(重要なお知らせ 2014 年 6 月 11 日)。   |
| 6 月 16 日 | ・三菱重工とシーメンスがアルストムへの共同提案の内容を公表(ニュースリリース 2014 年 6 月 16 日)。   |
| 6 月 19 日 | ・GE は当初の買収計画を大幅に見直した修正案を提出。  |

- |       |  |
|-------|--|
| 6月20日 | ・三菱重工とシーメンスは、アルストムへの共同提案の内容を改訂し、提出(ニュースリリース 2014年6月20日)。<br>・フランス政府はGE案を支持すると表明。 |
| 6月21日 | ・アルストムは臨時取締役会を開き、GEの提案を受け入れることを正式に決定。  |

アルストムとは:

エネルギーインフラや交通インフラの部門を有するフランスの多国籍企業  
年間売上高:2.8兆円規模  
従業員数 :約9万3000人  
筆頭株主 :ブイグ(建設、不動産、情報通信などを傘下におさめるフランスの企業)

## 受け入れられたGEの提案

GEの当初の提案は、123.5億ユーロ(約1兆7000億円)でアルストムの全エネルギー部門を買収し、GEの鉄道信号機事業をアルストムに譲渡するという内容と報道されたが、最終的には、ガスタービン事業はGEが100%取得、送配電・再生可能エネルギー・原子力関連については折半出資子会社を設立という内容に変更された。

原子力関連事業の重要事項についてはフランス政府に拒否権を与える、GEはフランス国内で1000人の新規雇用を創出することを約束。

フランス政府は、アルストムの筆頭株主・ブイグから最大20%の株式を取得して新しく筆頭株主になる見通しと伝えられている。

## 採用されなかった三菱重工・シーメンスの共同提案

三菱重工・シーメンスの共同提案は三菱重工のホームページで公開されている(2014年6月16日と2014年6月20日のニュースリリース)。最終的な提案内容は、詳細部分を除いて単純化すれば次のとおりである。

三菱重工・シーメンスの共同提案(要旨)
---------------------

・三菱重工については、アルストムの蒸気および原子力タービン、送配電機器、水力発電システムの事業を傘下に持つ持株会社を設立し、三菱重工が39億ユーロ(約5400億円)を出資して経営に参画する(出資比率は40%)。筆頭株主であるブイグからアルストムの株式を最大10%取得して安定的長期株主となる。
--

・シーメンスは、アルストムのガス発電システム事業を 43 億ユーロ(約 6000 億円)で買収する。フランスとドイツでは同事業の従業員を 3 年間雇用することを保証する。

(三菱重工のホームページより作成)

(注:シーメンスが事業を買収した場合、欧州の火力発電設備市場で同社のシェアが極端に高くなり、欧州委員会が定める独占禁止規定に抵触する恐れがあったと言われている。)

この共同提案と GE の提案と比較すると、金額が大きく異なっているのが目に付く。GE は 1 兆 7000 億円。三菱重工+シーメンスは 1 兆 1400 億円。しかし、関係者それぞれの事情もあるため、評価・比較は単純ではないようである。

三菱重工の宮永社長は 6 月 20 日の提案内容の改訂に当たって「三菱重工とシーメンスは、アルストム、その従業員、顧客、株主、さらに、フランスの国益にとって、この提案が最適であると固く信じています。この提案は、事業、財務、社会のすべての面において優れています」と述べて自信を示していた。

7 月 3 日の日経は、フランス政府のモンテブール産業再生相とオランダ大統領の間で意見が分かれていて、「最後は大統領の下で政府は立場を決めた」と伝えている。

## 2 三菱重工の狙い

三菱重工が得ようとしたものは、アルストムの蒸気および原子力タービン、送配電機器、水力発電システムの事業を傘下に持つ持株会社の株の 40% (約 5400 億円) とアルストムの株の最大 10% (こちらは 5400 億円に含まれていない) である。

三菱重工は 2010 事業計画に「グローバル成長の加速」、「自前主義脱却」を掲げ、2012 事業計画では「海外パートナーとの戦略的アライアンスや M&A による積極的な事業拡大」、「事業規模 5 兆円の高収益企業」を目指している。すなわち、M&A などによってグローバル進出と事業規模拡大を図り、利益率を引上げるという考えである。この基本戦略に沿って日立製作所と火力発電システム分野で事業統合した三菱日立パワーシステムズが今年 2 月に発足し、GE とシーメンスへの追撃を開始したばかりである。その点から推測すると、三菱重工が最も欲しかったのはアルストムのガスタービン事業であったかも知れない。しかし、それはシーメンスに譲らざるを得ず、そのほかの分野 (蒸気および原子力タービン、送配電機器、水力発電システム) で経営に参画することを狙ったのであろう。

その中でも、狙いは蒸気および原子力タービンにあったようである。当初 (6 月 16 日) の共同提案においても三菱重工は、「アルストムの蒸気および原子力タービン事業の 40%」を取得する合弁事業を提案し、他の 2 つ「送配電機器事業の 20%、同水力発電システム事業の 20%」よりも比重を大きくしていた。

### 狙いは「欧州、アフリカでのネットワークや原子力事業を強化」

争奪戦敗退後の株主総会 (6 月 26 日) において宮永社長は、買収提案を「欧州、アフリカでのネットワークや原子力事業を強化するのが狙いだ」と述べている (日経 2014 年 6 月 26 日)。

アルストムは、欧州だけでなくアフリカや中東などで強いと伝えられているが、そのネットワークが「事業規模 5 兆円の高収益企業」を目指すために是非欲しかったようである。

もう一つの狙いであった原子力事業の強化については、アルストムは多くの原発にタービンを供給している。最初の共同提案を提出した 6 月 16 日、宮永社長は「仏アレバとの原子炉事業に加え、アルストムとタービン事業で提携することにより、拡大する新興国の (エネルギー) 需要に応えていく」とのコメントを発表した (日経 2014 年 6 月 17 日)。原発用タービンで実績のあるアルストムと一体になって原発の売込みをはかっていこうと考えたようである。

原発の需要が新興国を中心にあるとは言え、原発そのものの危険性、核兵器へ転用の危険

性、数十万年にわたる使用済み核燃料保管の問題が、福島原発事故後に広く深く世界に認識されつつあり、原発は衰退していくことが確実に言ったと言える。ドイツのシーメンスは福島原発事故後に原発建設事業から撤退している。重大な事故を起こした日本ではもっとも深刻にとらえるべきであろう。アルストム争奪戦に敗れたこの際、原発からの撤退を考えてもよいのではないだろうか。

## 今後の展開

アルストム争奪戦で GE が勝ったことによって、エネルギー事業の競争は一層激しくなると言われている。これについて日経は次のように報じている。

仏重電大手アルストムの事業買収合戦で、米ゼネラル・エレクトリック (GE) が競り勝ち見通しとなった。仏政府が 20 日に GE 案の支持を表明したことで、エネルギー部門の売上高で 7 兆円と、三菱重工業の 6 倍もの規模となる米仏連合が誕生する。需要が急増するエネルギーの市場争奪戦を勝ち抜くため、世界の重電業界は「メガ再編」の段階に突入した (日経 2014 年 6 月 22 日)。

三菱重工業の宮永俊一社長は 26 日に都内で開いた株主総会で「(2月に火力発電システム事業を日立製作所と統合して発足させた)三菱日立パワーシステムズの融合を加速させる」と述べた。独シーメンスと共同提案した仏重電大手アルストムのエネルギー事業買収は失敗に終わったが、M&A を含めた戦略展開を急ぎ、売上高 5 兆円規模の高収益企業を目指す」と強調した (日経 2014 年 6 月 26 日)。

三菱重工は引き続き M&A に突き進むようである。

より巨大化する GE に対抗する立場は三菱重工もシーメンスも同じであるため、今後は両社の提携が進むのではないかという観測も流れている。

アフリカへの進出に関連する最近のニュースとして日経が次のように伝えている。

### 中東・アフリカで水事業 三菱商事など 300 億円出資

三菱商事と三菱重工業は国際協力銀行と組み、世界 26 カ国で水事業を展開する中東の大手メティート(本社ドバイ)に資本参加する。出資総額は 300 億円弱で、三菱商事と三菱重工が 4 割弱の議決権を持つ筆頭株主となる。メティートは需要増が見込まれる新興国に強い。

(中略)

三菱商事はフィリピンやオーストラリアで水事業会社に資本参加しているが、今後は中東やアフリカ、アジアなどで需要が急拡大すると判断。広域展開するメティートに経営参画し、水事業を本格展開する。三菱重工も海水淡水化装置の輸出拡大につなげる。

(日経 2014年7月8日)

三菱重工はアフリカへの進出を急いでいるようである。

## 労働者にとって

このような M&A をめぐる企業間の競争は、もとより労働者のためにやっていることではない。競争に勝っても負けても、競争に巻き込まれる労働者はきびしい状況に置かれる。4月に争奪戦が報道されたとき、アルストムの労働者は人員削減に反対するデモを開始したと伝えられている。

フランス政府は雇用を重視してフランス国内で1000人の新規雇用を創出することをGEに約束させているが、この点はフランスの労働運動が反映しているのであろう。

三菱重工は5400億円を超える出資を提案したが、5400億円とは、最高益を更新した2013年度の経常利益1831億円の3倍、今年の春闘の結果である2000円の賃上げに必要な資金(約8万人×2000円×18か月分=28.8億円/年)の187年分に相当する。会社は、この5400億円の投資は将来もっと大きな額になって返ってくるというかも知れないが、それを実現するのは労働者である。